

# 道徳通信

No.12 2022年(令和4年)10月11日(火)



学習日：10月6日(木) 内容：「平和について考える」

原爆投下で妻を亡くし、自身も原爆で被爆した永井博士さんについての話です。修学旅行では、原爆が投下された長崎を訪れます。平和について理解を深めることで、長崎を訪れた時により良い学習ができると思います。永井さんの話を通して、今一度、平和について考えてみましょう。

## 【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

永井さんはいつも相手のことを考えながら生きていてすごいなと思いました。病気になっても子どもに相手を大事にするのを教えてあげていて感動しました。

「すなおに見直せばこの世はこんなにも美しい」という言葉が永井さんの人生を見直すきっかけになってよかった。自分は余命があるのに、最後まで苦しんでいなくてすごかった。

永井さんは原爆で妻をなくし、白血病で余命宣告されたのに、この経験を「自分を素直にさせてくれた」ととらえて前向きに子どものために尽くしていた。修学旅行では、このことを知ったので、平和についてもっと深く考えようと思った。

白血病になってしまったのに、自分にできることをやり続けることはすごいなと思いました。私も自分にできることはやっいていこうと思いました。

広島のことについては知っていたけど、長崎の原爆について何も知らなかったの、知れてよかったです。永井さんの考えがすごいカッコよかったです。

自分のことよりも周りの人のことを考えているなと思いました。自分が白血病になって余命3年と言われても最後までみんなのことを考えていた。だから、人から愛されているのだなともいました。

残された人生を自分の体のためではなく、復興のために使い、書いた本の利益を寄付するというすごい人だと思いました。

みなさん、永井さんの生き様から感じたことがあると思います。原爆投下から77年以上経過していますが、その被害の跡はいまだに残っています。実際に訪れ、平和の大切さについて考えてみてください。